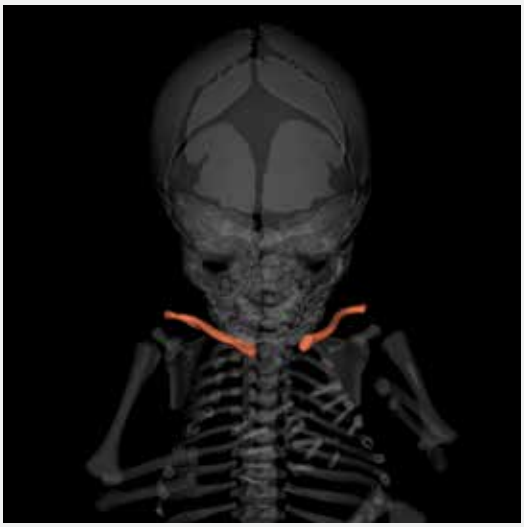
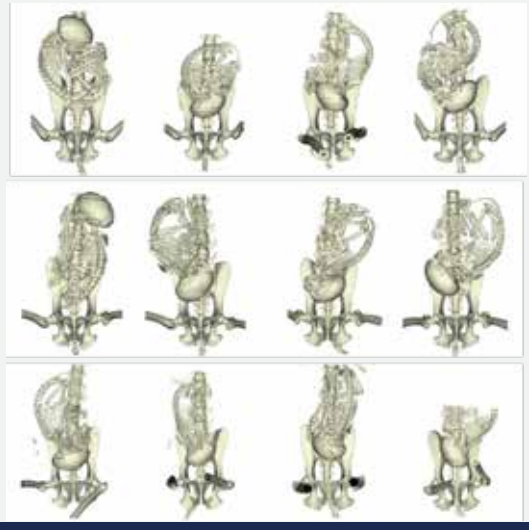
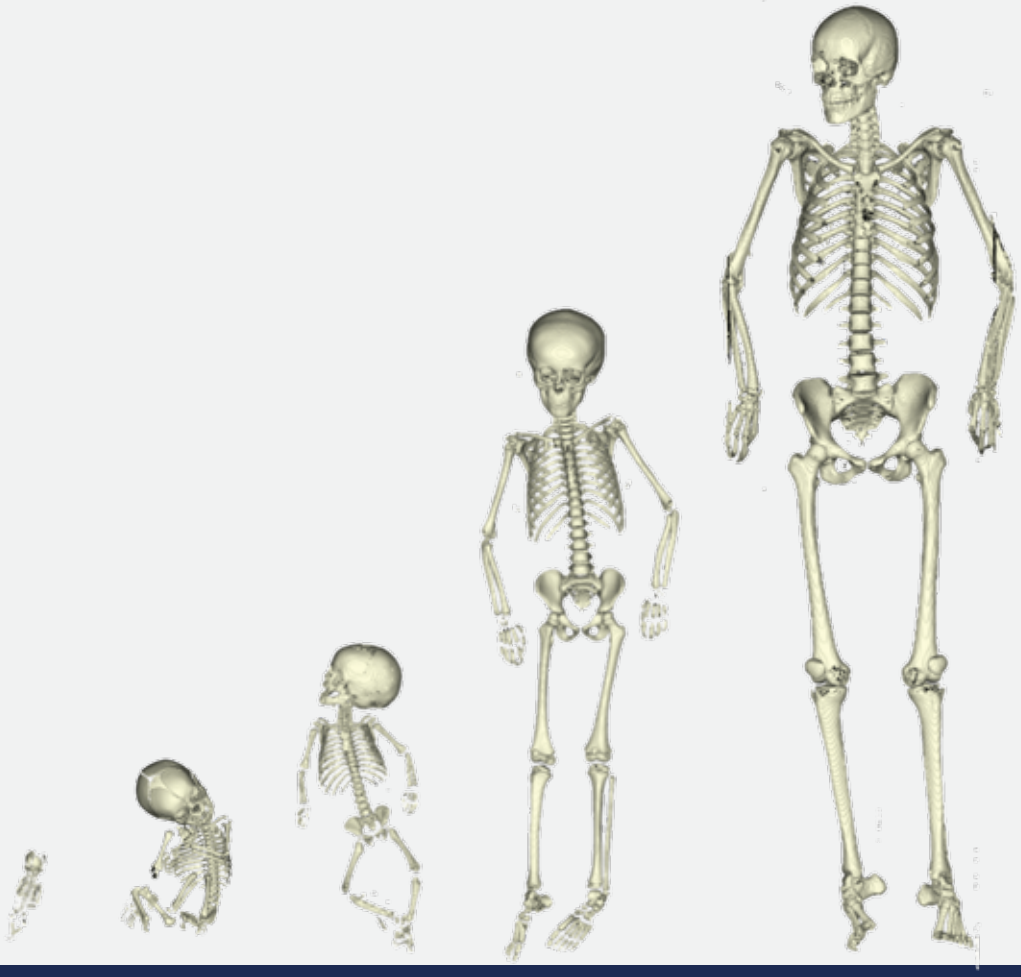






Seminar of the Kyoto University Museum

京都大学総合博物館セミナー第 133 回

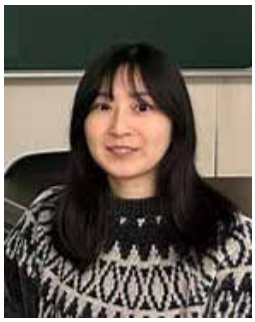
骨にみる産む・産まれるための戦略

2024 年 11 月 15 日（金）
16:30–18:00

南館 2 階セミナー室と
Zoom によるハイブリッド開催

★Zoom 設定は後日メールで通知します★

人類進化ときいて多くの人が思い浮かべるのが、 直立二足歩行の獲得や脳の拡大ではないでしょうか。 二足で歩くことで私たちは手を自由に使えるようになり、 大きな脳は高い知能をもたらしました。 いいことずくめのように思えますが、 これらの特徴により私たちヒトの出産は非常に困難なものとなりました。効率的な直立二足歩行のために形を変えた骨盤（産道）は、大きな脳をもつ赤ちゃんが通るには窮屈なものとなったのです。出産はヒトを含め多くの哺乳類にとって種の存続・進化に必要不可欠な過程であり、 大変だからといって避けて通れるものではありません。 ヒトは人類進化の初期から今まで、 いかに産むか・産まれるかの問題と常に隣り合わせの状態にあります。 今回のセミナーでは、 骨に刻まれた産む・産まれるための工夫についてお話します。



川田 美風
理学研究科自然人類学研究室 助教

画像左上：小さく産まれ大きく育つ鎖骨　左下：出産のための母子の共同戦略　右：難産を緩和するための「ヒトらしい」成長パターン

問い合わせ
総合博物館セミナー担当：塩瀬・中川
内線：16-7740
Email: museum-seminar@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp